

町長室から

平成

23年3月11日に発生した悪夢の東日本大震災発生から6年が経過しました。

この年月は被災された皆さんにとりまして、苦難の年月であつたらうと思ひますし、厳しい復興の道のりでもありません。

しかし、いまだ関係者の身柄を探し続ける多くの皆さんがあり、ふるさとへの帰還が許されない人たちがいる「帰還困難地区」の存在は、まだまだ震災の爪あとを残しており、完全復興までの道のりの長さを知らされます。

改めて、少しでも早くの被災地復興を願わずにはいられません。

先日、北海道新聞社道新会と「地域見守り協定」を締結していただきましたが、一人で生活されている方などが、元気でいるかどうか新聞を配達する際に確認していただくものであり、安心して生活する為の一助となる協定であるだけに大変感謝申し上げます。

厚内地区で平成かもめ橋が完成し、開通式を行いました。

国道336号線が十勝太地区から昆布刈石地区まで伸びて、それに接続する直別共栄線道路の厚内地区の道路を直線化しようとする工事が進められていたのですが、2月20日に開通したものです。

国道が整備されてから、大型車両の交通量が格段に増えて、厚内駅前を直角に曲がるカーブは特に冬期間は危険な状況であり、地区の皆さんから危険箇所の解消について切羽詰った要望が上がっていました。ようやく完成したものです。

しかし、直線化になったためにスピードを落とさず走行する車が増えてはかえって危険性を増すため、これからは交通法規の遵守を求めていく必要があります。

第1回定例議会が閉会し、平成29年度予算を可決していただきました。

一般会計で69億3600万

円(前年度比7億3400万円増)、8特別会計をあわせると97億2422万5千円(前年度比5億6331万円増)の予算となりました。

少子高齢化社会のなかで、何とか人口の減少を食い止めるための「第3期まちづくり計画重点プロジェクト」を中心に高齢者福祉や子育て環境の整備に資する予算を編成しました。

安倍首相は年頭の挨拶で「億総活躍社会の実現と述べていますが、浦幌町は「みんなの知恵、世代を超えてつくるまち」で町民の協働のまちづくりを進めてまいります。

うらほろスタイルの活動も10年が経過して、全国的に知られるようになって来ましたが、新たな仕事を創業する事業の中で、大都市で働く人たちが、浦幌町でも仕事を行う新たな事業の展開が始まりました。

浦幌町も「地方創生推進交付金」を活用して、補助を行います。既に実証実験として浦幌町に大手企業の社員が来て一

定期間滞在し仕事をする仕組みづくりが立ち上がりました。

将来は経験者が定住への道を選択するなども考えられ、今後の発展が楽しみです。

浦幌町からまたまた新種の貝が発見されました。

活平層から新種を含め学術的に貴重な3種類の巻貝が発見され、新種のうち「ウラボクミゾンソデガイ」と名づけられた貝化石は世界で最も古いものです。

これまで恐竜時代に絶滅したと考えられていたものが、その後生き延びていた事も新たに確認され、古生物学上の新発見として着目されています。

今回の発見資料については準備が整い次第、浦幌博物館の常設展示室で公開される予定です。

浦幌町長 水澤 一廣